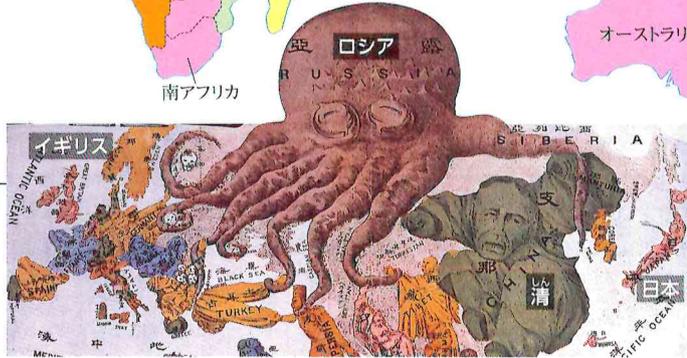




5節の問い なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。



↑1 1910年代の世界

←2 ヨーロッパ諸国の
力関係を風刺した絵地図

当時の人々は、
ロシアをどのように
とらえていたのかな。



1 アジアの列強を目指して

解説 列強
 資本主義が発達し、ほかの国に対して、さまざまな分野で世界規模の影響力をもつ国のことです。当時の日本では、このような国を「一等国」とよんでいました。

歴史プラス エルトゥールル号の遭難

1890(明治23)年、和歌山県の樫野崎付近でトルコの軍艦エルトゥールル号が遭難しました。事故では多くの乗組員が亡くなりましたが、地元の人々の努力によって69名が救助されました。この事件は日本とトルコの友好のきっかけとなり、串本町では今でも5年おきに追悼式典が行われています。

→3 駐日トルコ共和国大使を迎える追悼式典(和歌山県 串本町)
 [串本町提供]



学習課題 明治政府は条約改正に向けて、どのような取り組みを行ったのだろうか。

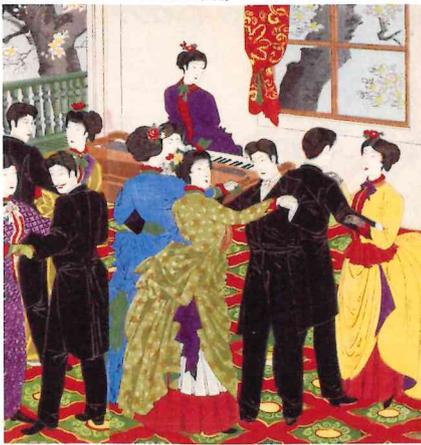
帝国主義 イギリス対ロシア

19世紀後半以降、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカといった欧米諸国は列強とよばれました。列強は、資源を得たり商品を買ったりするための市場を求めて、積極的に海外へ進出し、軍事力を行使して、経済や技術の発展度合いが低い地域を植民地などとして支配しました。人々も、そのような土地を「未開」の土地と考え、そこに秩序などをもたらすことを肯定し、市場が海外に広がれば賃金が上がると期待しました。このような動きや考え方を帝国主義といいます。

清に進出したイギリスと、南に領土を広げたいロシアは、東アジアでも対立を深めていました。1891(明治24)年にロシアがシベリア鉄道の建設を始めると、イギリスは、ロシアを東から抑えるために日本と良好な関係を築こうとしました。

条約改正への努力

日本は、岩倉使節団派遣の後も、欧米諸国との対等な関係を求めて条約改正の努力を続けていました。政府は、欧米人を鹿鳴館に招いて舞踏会を開くなどの欧化政



↑4 鹿鳴館での舞踏会(左)と↑5 ビゴアの風刺画(1887年)(右) 鹿鳴館は、明治政府が外国人接待のためにつくった社交場でした。

資料活用 ビゴアはこの絵で何を風刺したのだろうか。



↑6 ノルマントン号事件のイギリスの対応を批判する風刺画 1886年、イギリスの貨物船ノルマントン号が難破・沈没し、イギリス人は全員救助されましたが、日本人は全員水死しました。イギリス領事裁判所は船長に賠償を求めなかったため、ビゴアはそのことを「イギリスの船長いわく、助けてもらいたいなら何ドル出するか？早く言え、時は金なり」と風刺しました。

小地公

策を行いましたが、すぐには外交成果につながりませんでした。

1886年に起こったノルマントン号事件では、日本人の乗客を救助しなかったイギリス人船長を日本側で裁くことができなかったため、領事裁判権の廃止を求める声が高まりました。

その後、政府は、ロシアの南下を警戒するイギリスと交渉し、1894年、陸奥宗光外務大臣(外相)のときに日英通商航海条約を結んで、ようやく領事裁判権の廃止に成功しました。次いで、ほかの欧米諸国とも条約改正が実現しました。これによって横浜・神戸などの外国人居留地がなくなり、外国人は日本のどこにでも居住できるようになりました。その代わりに、外国人も日本の法律に従うことになりました。条約改正の背景には、憲法の制定など、日本において法や国家のしくみが整ってきたこともありました。しかし、この時点では関税自主権の回復は実現せず、課題として残りました。

朝鮮をめぐる 東アジアの情勢

日本は欧米諸国と対等な国になろうと努力する一方で、清との勢力争いが続いていた朝鮮半島

に影響力を広げようと考えようになりました。日朝修好条規によって開国した朝鮮では、日本にならって軍隊や政治を改革しようとする勢力が台頭しました。この勢力は、清との関係を強めようとする勢力と対立し、1884年に政権争いに敗れました(甲申事変)。これによって、朝鮮における日本の勢力は一時的に後退していきました。また、清が事変に軍事介入して日本人に犠牲者が出たこともあり、清と開戦すべきだという強硬論が盛り上がりました。



↑7 陸奥宗光 (1844~97)



↑8 小村寿太郎 (1855~1911) (→p.211) 小地公

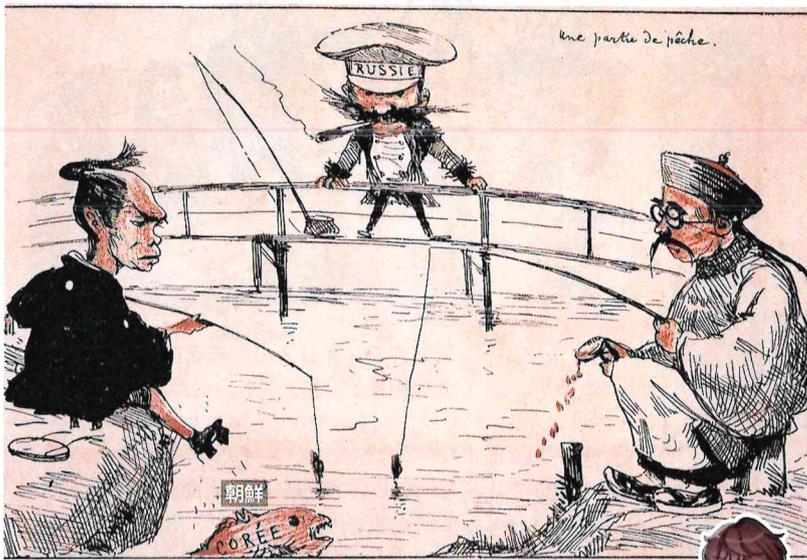
年	責任者	交渉の状況
1872	岩倉具視	準備不足で失敗
1878	寺島宗則	イギリスなどの反対で不成功
1882~87	井上馨	欧化政策への反発で中止
1888~89	大隈重信	外国へ譲歩した大隈が襲われ中止
1891	青木周蔵	大津でロシア皇太子が襲われ中止
1894	陸奥宗光	領事裁判権の廃止に成功
1894~95	日清戦争	
1899	青木周蔵	各国との改正条約を実施
1904~05	日露戦争	
1911	小村寿太郎	関税自主権を完全に回復

↑9 条約改正への歩み

条約改正に向けて日本が行ったことを、本文から書き出そう。
 確認しよう

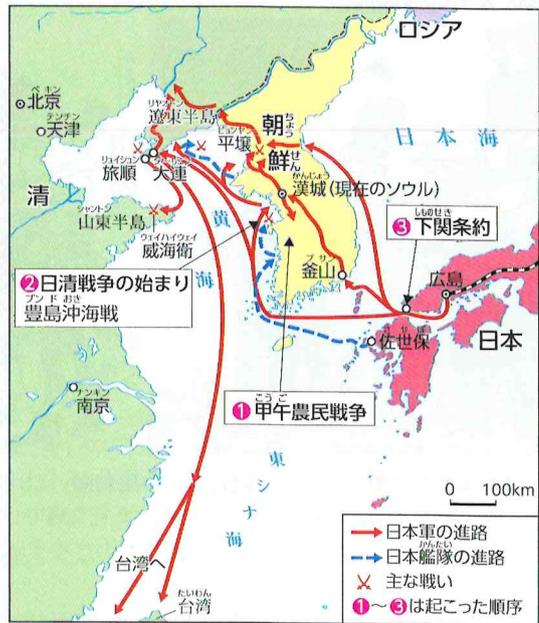
なぜこの時期に領事裁判権の撤回に成功したのか、世界的情勢も踏まえて説明しよう。
 説明しよう

1 文
 2 弥生
 3
 4 古墳
 5
 6
 7 飛鳥
 8 奈良
 9
 10 平安
 11
 12
 13 鎌倉
 14 南北朝
 15 室町
 16 戦国
 17 安土・徳川
 18 江戸
 19
 20 明治
 21 大正
 22 昭和
 23 平成
 24 令和



↑1「魚釣り遊び」東アジアにおける清・日本・朝鮮・ロシアの関係を風刺しています。[ピゴア作] 小地公

この絵はどのようなことを表しているのかな。

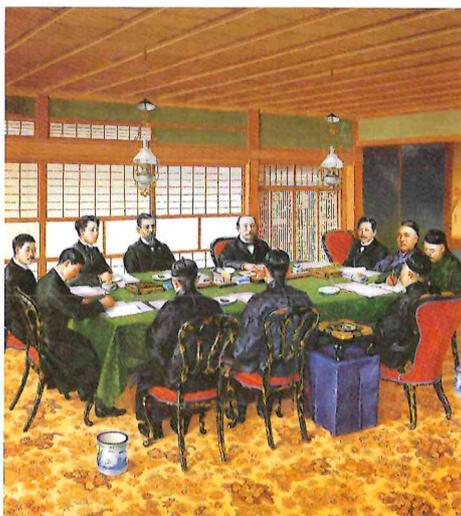


↑2日清戦争

2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争

5節の問い なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。

① 1885年の条約で、日本と清は、朝鮮半島に軍を送るときは、互いに通知することを取り決めていました。



↑3下関条約の調印の様子 内閣総理大臣の伊藤博文、外務大臣の陸奥宗光(→p.207)らが、中国全権の李鴻章と対面しています。[永地秀太作「下関講和談判」東京都 聖徳記念絵画館蔵]



学習課題

日清戦争の結果、国内や東アジアではどのような変化が起こったのだろうか。

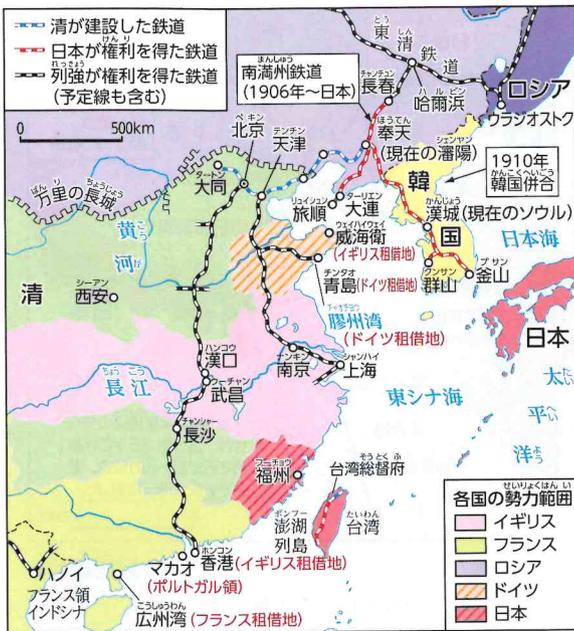
甲午農民戦争

19世紀末の朝鮮では、重い税金に加え、凶作と日本の商人による米の買い占めで、米の値上がりが続いていました。1894(明治27)年、キリスト教(西学)に反対する宗教(東学)を信仰する農民たちを中心に、日本と欧米諸国を追い払い、朝鮮の政治改革を目指す反乱が朝鮮半島の南部で起こり、勢力を広げました(甲午農民戦争)。

日清戦争

甲午農民戦争をしずめるために朝鮮政府が清に援軍を求めると、日本も清に対抗して朝鮮へ軍隊を送りました。これを知った農民軍は朝鮮政府と和解しましたが、日本は朝鮮政府に改革を要求して、朝鮮王宮を占拠するなどの干渉を行いました。そのため、朝鮮を勢力範囲と考える清との対立が深まり、1894年7月、日清戦争が始まりました。日本政府は、軍隊を派遣する拠点となる広島に、議会などを移し、一時的に首都の機能を担わせました。

清は大国でしたが、近代装備で勝る日本軍が勝利し、翌95年4月、下関(山口県)で日清講和条約(下関条約)が結ばれました。その結果、日本は清に朝鮮の独立を認めさせ、遼東半島・台湾・澎湖列島と、2億両(当時の日本の国家予算の約3.6倍)の賠償金を得ました。賠



↑4 欧米諸国の清への進出

歴史プラス+ 台湾の植民地化と近代化

下関条約によって日本の植民地となった台湾は、台湾総督府によって統治されていました。総督府は教育の普及のほか、鉄道やダム、港湾、郵便局の建設など、台湾の近代化を進めました。しかし、住民からは抵抗運動も起こりました。抵抗運動は、初めは武力でしたが、教育が普及すると、言論で展開されるようになりました。



東京に留学した民族運動家たちは、台湾議会の設置を求める政治運動を展開しました。また、彼らは『台湾青年』『台湾民報』といった民族運動の機関誌も刊行し、主張を世に広めました。

日本による台湾の支配は、第二次世界大戦が終わるまで(→p.270)、50年間続きました。

←5 台湾の民族運動家が発刊した機関誌
[右：早稲田大学図書館蔵]

償金は軍事力の強化や日本の工業化などに使われました。

三国干渉と列強の清への進出

下関条約によって日本が遼東半島を獲得すると、清で利権を広げたいロシアはドイツ・

フランスを誘い、遼東半島を清に返すよう日本に迫りました(三国干渉)。日本は、軍事的に対抗する力がなく、遼東半島返還分の補償金を清から得ることを条件にこれに応じました。そのため、国民の間でロシアに対する不満が高まりました。日清戦争後、清の国力が衰えたことを知った欧米諸国は、競って清に進出しました。ロシアは、清から遼東半島の旅順と大連を租借し、シベリア鉄道と接続する鉄道(東清鉄道)を清国内につくる権利を得ました。ドイツ・フランス・イギリスも、清の各地で新たな租借地を得ました。

日清戦争後の政策

日清戦争の結果、東アジアでは朝鮮は清から独立し、また日本と清の間にあった琉球の所属問題

や朝鮮をめぐる問題は消滅しました。三国干渉後、朝鮮は、日本を警戒してロシアに近づくようになりました。

日本は獲得した台湾に台湾総督府を設置し、植民地支配を始めました。日本国内では、軍備拡張などで意見が一致したことにより、政府と政党の提携が進みました。1900年には伊藤博文によって、みずからを代表とする立憲政友会が結成され、政権を担う存在となっていました。こうして、政党による政治の基礎が築かれました。

総額約3億6000万円



↑6 日清戦争による賠償金の使いみち(遼東半島返還分と利子も含む) (資料活用) 賠償金は主に何に使われたのだろうか。

解説 租借

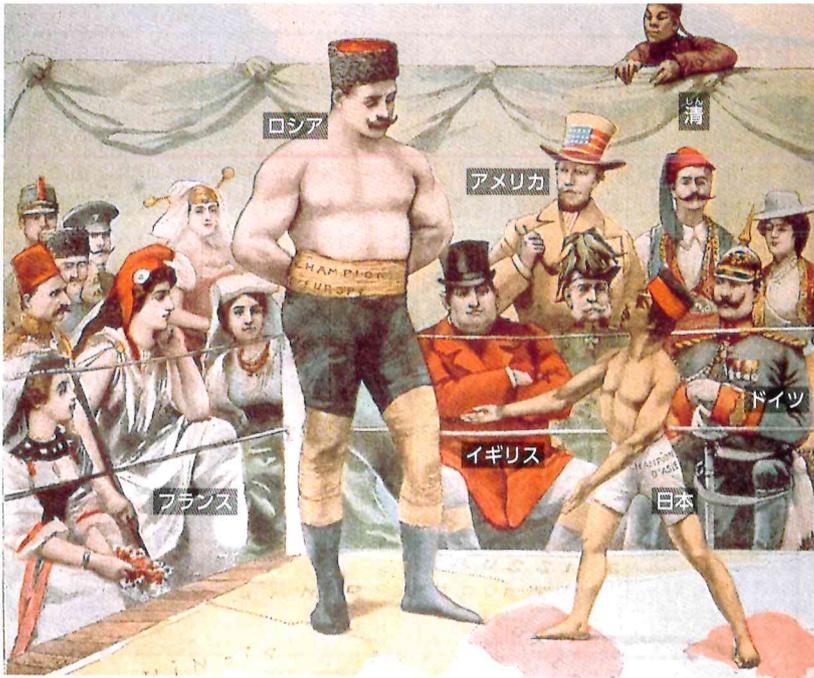
外国の領土を期限つきで借り受けて、支配することをいいます。借りた国は、総督などの役人を派遣し、その土地と人民を支配しました。

② 朝鮮では独立国としての形を示すため、1897年に国名を大韓帝国(韓国)とし、国王を皇帝としました。

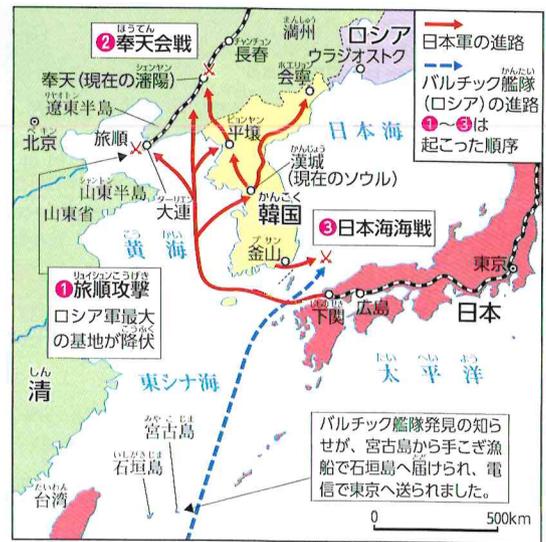
☑ 確認しよう 下関条約の内容を、本文から書き出そう。

💬 説明しよう 日清戦争によって、日本・清・朝鮮のアジアでの立場はどのように変化したか、それぞれ説明しよう。

縦文
1 弥生
2
3
4 古墳
5
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平
11 安
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土・桶山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
平成
令和



↑1 ロシアに挑む日本を描いた風刺画(フランス、1904年)



↑2 日露戦争

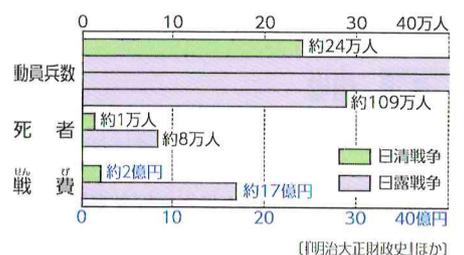


日本とロシアの対立は、ほかの国にはどのように見えていたのかな。

3 世界が注目した日露戦争

5節の問い なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。

① 農民の自衛組織で、やがて反キリスト教や、反外国を主張する民衆運動に発展しました。



↑3 日清・日露戦争の比較



↑4 日露戦争における軍事費内訳 国内からの借金だけでは足りず、同盟を結んだイギリスの銀行やアメリカのユダヤ系資本家などから多くの軍資金を借りました。

学習課題

日露戦争によって、日本国内の状況や外国との関係はどのように変化したのだろうか。

義和団の抵抗

欧米諸国が進出するなかで、清では、外国勢力を追い払おうとする動きが起こりました。1899(明治32)年、山東省で義和団が立ち上がり、翌1900年には、清の軍隊とともに北京の外国公使館を取り囲みました。しかし、日本軍を中心とした列強8か国の出兵によって敗れました(義和団事件)。

日露戦争

ロシアは、義和団事件で受けた被害を理由に、満州(中国東北部)へ軍隊を送り、事件後もとどまって満州を勢力下に置こうとしました。それを阻止したい日本とイギリスの利害が一致し、1902年、日英同盟が結ばれました。ロシアとの交渉は決裂し、日本では、日英同盟を後ろ盾としてロシアとの開戦を主張する声が強くなりました。キリスト教徒の内村鑑三や社会主義者の幸徳秋水など、戦争反対の声もありましたが、1904年、日露戦争が始まりました。

翌05年、日本軍は旅順や奉天(現在の瀋陽)でロシア軍を破りましたが、戦争が長引くと兵力や物資が足りなくなりました。ロシア国内でも生活の悪化と専制政治への不満から民衆による革命運動が起こり、ともに戦争継続が難しくなりました。そうしたなか、東郷平八

日露戦争をめぐるさまざまな意見

東京帝国大学などの七博士
(首相に意見書を提出した7人の大学教授)

ロシアは朝鮮に問題を起こそうとしている。なぜなら、争いの中心を朝鮮にすれば、満州はもうロシアの勢力範囲にあるとみなが思うからだ。したがって極東の問題は満州の保全にかかっている。…この開戦の機会を逃したら、日本はその存立をまやしくしてしまうのだ。

〔『東京朝日新聞』1903年6月24日より、一部要約・抜粋〕

内村鑑三(キリスト教徒)

私は日露戦争だけではなく戦争そのものに絶対に反対する者である。戦争は人を殺すことであり、それは大罪悪である。

〔『万朝報』1903年6月30日より、一部要約〕



↑6内村鑑三
(1861~1930)

幸徳秋水(社会主義者)

…日本・ロシア両政府は自分たちの過失を認めず戦争の責任を押し付け合っている。…私たち平民は何の責任もないのにその負担をすべて請け負わなければならない。…だから私たちはできる限り戦争反対を叫び続けるべきである。

〔『平民新聞』1904年2月24日より、一部要約・抜粋〕

与謝野晶子(歌人)

あゝをとうとよ君を泣く
君死にたまふことなかれ
末に生れし君なれば
親のなさはけはまさりしも
親は刃をにぎらせて
人を殺せとをしへしや
人を殺して死ねよとて
二十四までをそだてしや
(旅順口包圍軍のなかにある
弟をなげきて) 〔『明星』1904年9月より、抜粋〕



↑6与謝野晶子
(1878~1942)
(→p.248)

小地公

対話 日露戦争について当時さまざまな意見があるなかで、なぜ人々の多くが戦争を支持したのか、周りと話し合ってみよう。



↑7重税に苦しむ国民〔『東京パック』埼玉県さいたま市立漫画会館蔵 1908年〕

資料活用 日露戦争直前1900年の税額は、日清戦争後の1895年と比べて何倍になったか、p.1896を確認しよう。

郎の指揮する海軍がロシアのバルチック艦隊に日本海で勝利しました。これを機に、アメリカの仲介によって日露講和条約(ポーツマス条約)がアメリカで結ばれました。条約では韓国における日本の優越権が承認され、日本は長春~旅順間の鉄道の利権と、旅順・大連を中心とする遼東半島の租借権、南樺太などをロシアから得ました。戦争では約8万人の日本兵が犠牲となり、人々は重い税金や負担に苦しみながら戦争に協力しました。また、戦争の動向に強い関心を寄せ、新聞や雑誌などでみずからの意見を表明しました。ロシアから賠償金が得られないことが分かると、政府はロシアに弱腰であるという声が高まり、日比谷焼き打ち事件などの暴動が起きました。

日露戦争の影響

日露戦争の勝利は、日本を外国に認めさせる結果となり、不平等条約廃止の好機となりました。1911年、小村寿太郎外相の下、日米間などで新たな通商航海条約が結ばれ、日本は関税自主権を完全に回復し、欧米諸国との条約改正がすべて達成されました。

また、日露戦争の結果、アメリカとイギリスも、韓国を日本の勢力下に置くことを認めました。しかし満州については、アメリカも経済的な進出を狙っていたため、「門戸開放」(通商の自由)を強く求めました。日本は南満州を自国の影響下に置くため、ロシアと協力するようになり、アメリカとの良好な関係が崩れ始めました。

また、日露戦争の結果、アメリカとイギリスも、韓国を日本の勢力下に置くことを認めました。しかし満州については、アメリカも経済的な進出を狙っていたため、「門戸開放」(通商の自由)を強く求めました。日本は南満州を自国の影響下に置くため、ロシアと協力するようになり、アメリカとの良好な関係が崩れ始めました。

ポーツマス条約(1905年)

- 一、ロシアは韓国に対する日本の指導・監督権を認める。
- 一、ロシアは、遼東半島の旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道とその付随利権を日本に譲渡する。
- 一、ロシアは、北緯50度以南の樺太(サハリン)と、その付随の諸島を日本に譲渡する。
- 一、ロシアは、沿海州とカムチャツカの漁業権を日本に認める。

〔一部要約・抜粋〕



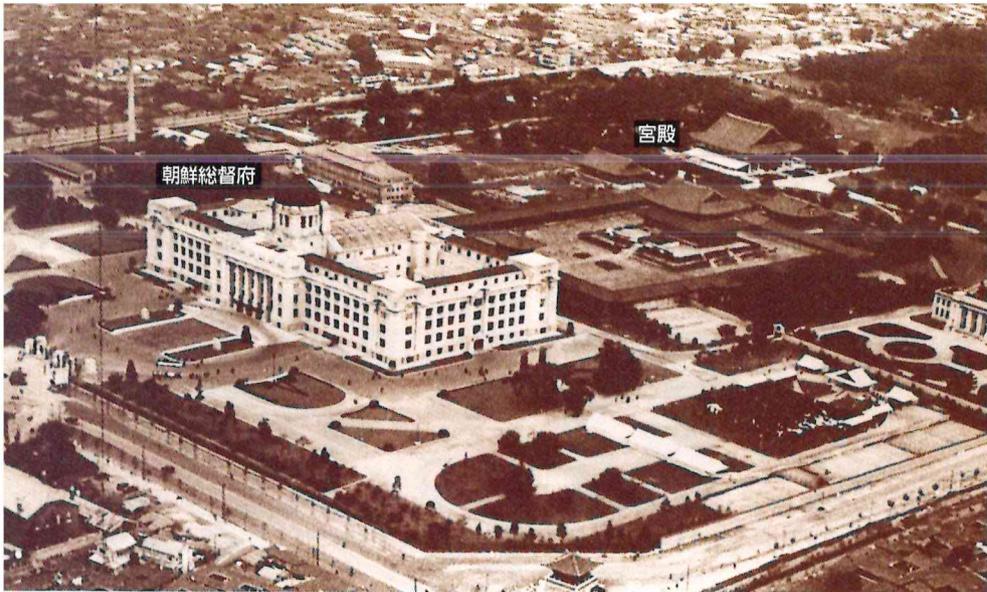
確認しよう

ポーツマス条約の内容を、本文から書き出そう。



説明しよう

日露戦争によって、日本と外国との関係はどのように変化したのか、説明しよう。



↑1 韓国の王宮の宮殿前に建てられた朝鮮総督府 総督府の建物は、現在は取り壊されています。

韓国併合をよんだ短歌

初代朝鮮総督の歌

小早川・加藤・小西が世にあらば
今宵の月をいかに見るらむ
①豊臣秀吉の命令で朝鮮で戦った(→p.119)
3人の大名 [寺内正毅作、1910年]

石川啄木の歌

地図の上 朝鮮国にくるぐると
墨をぬりつつ 秋風を聴く
[「創作」より、1910年9月]

図1から、日本と韓国の
どのような関係が
読み取れるかな。



4

塗り替えられた アジアの地図

5節の問い なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。

解説 保護国

ほかの国によって外交権などを失った国のことを指します。保護国となった国には、内政に関する権利は残りました。



↑2 来日したファン=ボイ=チャウ(1918年)
ベトナムの独立運動家ファンは、1905年に来日して「日本に学べ」をスローガンとした留学運動を展開しました。日露戦争での日本の勝利に感動していました。写真はかつてファンを支援していた静岡県袋井市出身の医師浅羽佐喜太郎の記念碑を建てるために来日した際のものです。



学習課題

日清・日露戦争の後、朝鮮・中国ではどのような変化がみられたのだろうか。

変わるアジアの 意識

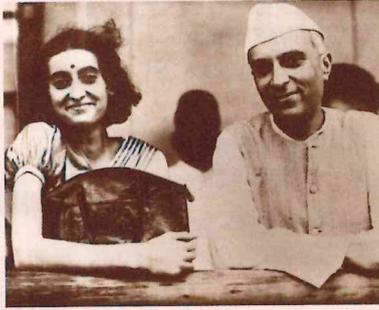
日本が日露戦争に勝利したことは、植民地支配に苦しむアジアの人々に、近代化や独立への希望と自信を与えました。そのため、アジア諸国から日本へ留学・亡命する人が増えました。一方、日本人の間には、日清・日露戦争に勝利したことなどによって、日本人はアジアのなかで優れていると考える人が増えてきました。そして、アジア諸国の期待とは異なり、日本は韓国の植民地化を進め、陸軍・海軍の軍備を増強させるなど、帝国主義国としての動きを活発にしていきました。

韓国併合と植民地・満州での政策

日露戦争後のポーツマス条約で、ロシアに対して、韓国における優越的地位を認めさせた日本は、1905(明治38)年、韓国から外交権を奪って保護国とし、伊藤博文を韓国統監として派遣しました。後には日本が内政も支配し、韓国の軍隊・警察を解散させました。このため韓国では、兵士らによる激しい抵抗が各地に広がり、1909年には伊藤が暗殺される事件も起こりました。翌10年、日本は韓国を併合し、植民地としました(韓国併合)。韓国を朝鮮と改め、軍人の朝鮮総督を置いて支配し、首都である漢城(現 ソウル)も京城と名を変えさせました。日本の支配に対する朝鮮民衆の抵抗は、その後も続きました。朝鮮では、近代化が進められ、鉄道や鉱山などが整備される一方、

アジア諸国からみた日本の近代化

日本のロシアにたいする勝利が
 どれほどアジアの諸国民をよこ
 ばせ、こおどりさせたかを、われ
 われはみた。ところが、その直後
 の成果は、少数の侵略的帝国主義
 諸国のグループに、もう一国をつ
 けくわえたというのにすぎなかつ
 た。そのにがい結果を、まず最初
 になめたのは、朝鮮であった。
 [ジャワーハルラール=ネルー著 大
 山聰訳「父が子に語る世界歴史4」よ
 り、一部要約]



↑3 インドの初代首相ネルー(右)と
 後に首相となる娘のインディラ(左)

資料活用 この文章を書いたネルーは、日本の近代化政策に対してどのよ
 うな感情を抱いたのだろうか。

学校で日本語や日本の歴史・地理が教えられ、朝鮮の文化や歴史を
 教える機会は減らされました。また土地調査の結果、所有者があい
 まいな土地は没収されたため、小作人となる者や、日本や満州へ移
 住せざるをえない者が出ました。一方、下関条約で日本の植民地と
 なった台湾では、日本の企業が、主要な産業である製糖業を取りし
 きるようになりました。満州では、日本がポーツマス条約で得た鉄
 道の利権をもとに、1906年に南満州鉄道株式会社(満鉄)が発足し
 ました。満鉄は、長春～旅順間の南満州鉄道や、関連する炭鉱や製
 鉄所などを経営して、満州における中心的な企業となりました。

アジア初の 共和国

清では、人々の信頼を失った政府を倒そうとする
 動きが起こりました。なかでも孫文は、亡命先の東京
 で清を倒すための運動を進め、民族の独立、民主政の実現、国民
 生活の安定を目指す三民主義を唱えました。

1911年、武昌(現在の武漢の一部)での反乱をきっかけに、清を
 倒そうとする動きが本格化しました。翌12年、帰国した孫文が臨時
 大総統となり、南京でアジア初の共和国である中華民国の成立を
 宣言しました。こうしたなかで、清の皇帝は退位し、約300年続い
 た清は滅亡しました(辛亥革命)。その後、孫文に代わって、清朝政
 府の実力者であった袁世凱が大総統に就任し、首都を北京へ移しま
 した。しかし、袁世凱は孫文らとの約束を破り、議会議を無視して独
 裁政治を行ったため、中国では混乱が続きました。

未来に
 向けて

孫文と神戸のかかわり

人権・
 多文化

孫文は広東省出身の医者でしたが、清を倒す運動
 を起こして、日本に亡命しました。神戸に到着した
 孫文は、日本と欧米などを往復しながら運動を続け、
 武昌での反乱が起きると、神戸在住の華僑約700名
 も革命を支援しました。また、1924年には神戸で、
 「大アジア主義」演説を行いました。これは、日露戦
 争の勝利に勇気づけられて独立運動を起こしたアジ
 アの諸民族が、団結して欧米に対抗すべきだという
 内容でした。

→4 神戸で
 演説をする
 孫文(1866
 ~1925)



↑5 和服を着た韓国の皇太子と写る伊藤博文(左)と6 朝鮮の服を着た伊藤博文(右) 伊
 藤は韓国の植民地化には消極的で、韓国側の
 自発的な協力による近代化を目指していま
 した。そのため、韓国の皇太子を日本に留学
 させ、日韓提携の象徴にしようとした。



確認しよう

日露戦争後に、朝鮮と中国で起こつ
 た国のあり方を変える出来事を、
 本文から一つずつ書き出そう。



説明しよう

日本は日清・日露戦争後、朝鮮と
 中国でどのようにして勢力を拡
 大していったのか、説明しよう。